

作成日 : 2011年 6月 29日
 改訂日 : 年 月 日

製品安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名 (商品名)	ガルシアフロアブル
会社名	ホクサン株式会社
住所	〒061-1111 北海道北広島市北の里 27 番地 4
担当部門	農業科学研究所
電話番号	011-370-2103
FAX 番号	011-370-2070
e-mail	gyoumuka@hokusan-kk.jp
緊急連絡先	営業部業務課
TEL	011-370-2333
推奨用途及び使用上の制限	農薬
整理番号	22935-0

2. 危険有害性の要約

【GHS 分類】

物理化学的危険性	引火性液体	区分外	
	自己反応性化学品	区分外	
	自己発火性液体	区分外	
	自己発熱性化学品	区分外	
	水反応可燃性化学品	区分外	
	酸化性液体	区分外	
	有機過酸化物	区分外	
	金属腐食性物質	区分外	
	健康に対する有害性	急性毒性 (経口)	区分 4
		急性毒性 (経皮)	区分 5
		皮膚腐食性/刺激性	区分外
		眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分 2B
		感作性 (皮膚)	区分 1
		水生環境 (急性有害性)	区分 1

* 上記で記載がない危険有害性は、分類対象外か分類できない。

【GHS ラベル要素】

絵表示又はシンボル



注意喚起語

警告

危険有害性情報

飲み込むと有害
 皮膚に接触すると有害のおそれ
 眼刺激
 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ

水生生物に非常に強い毒性

注意書き

安全対策

子供の手の届かないところに置くこと。
 使用前にラベルをよく読むこと。
 ミストの吸入を避けること。
 取扱い後は、手、顔等をよく洗うこと。
 この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
 必要な時以外は、環境への放出を避けること。

応急措置

保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。
 飲み込んだ場合：気分が悪い時は、医師に連絡すること。
 皮膚についた場合：多量の水と石鹼で洗うこと。
 レンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
 口をすすぐこと。
 皮膚刺激または発疹が生じた場合は、医師の診断／手当を受けること。
 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクト眼の刺激が続く場合は、医師の診断／手当を受けること。
 汚染した衣類は再使用する場合には洗濯すること。
 漏出物を回収すること。

保管

—

廃棄

内容物／容器を国及び地方自治体の廃棄物処理に関する法律・条令に従って廃棄すること。

国／地域情報

—

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別

混合物

化学名又は一般名

ガルシアフロアブル

組成情報

1) 化学名

(RS) - 2 - [2-(3-クロロフェニル)-2,3-エポキシプロピル]-2-エチルインダン-1,3-ジオン

別名

インダノファン

含有量

10.0%

化学式

C₂₀H₁₇ClO₃

化審法

—

安衛法

—

CAS No.

133220-30-1

2) 化学名

2',4'-ジフルオロ-2-(α , α , α -トリフルオロ-m-トリルオキシ)ニコチンアニリド

別名

ジフルフェニカン

含有量

4.0%

化学式

C₁₉H₁₁F₅N₂O₂

化審法

—

安衛法

—

CAS No.

83164-33-4

3) 化学名	水、界面活性剤等
別名	—
含有量	86.0%
化学式	—
化審法	—
安衛法	—
CAS No.	—

4. 応急措置

吸入した場合	<p>空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 呼吸が止まっている場合は、衣類をゆるめ呼吸気道を確保した上で人工呼吸を行う。 呼吸していて嘔吐がある場合は頭を横向きにする。 体を毛布などでおおい、保温して安静を保つ。 意識のない被災者には何も飲み物を与えてはならない。 直ちに医療措置を受ける手配をする。</p>
皮膚に付着した場合	<p>皮膚に付着した場合には直ちに石鹼でよく洗い落とすこと。 水泡、痛みなどの症状がでた場合には、必要に応じて医師の診断を受ける。</p>
眼に入った場合	<p>目に入った場合には直ちに十分に水洗し、眼科医の手当を受けること。 コンタクトレンズを使用している場合は、固着していないかぎり、取り除いて洗浄すること。</p>
飲み込んだ場合	<p>水でよく口の中を洗浄する。可能であれば、指をのどに差し込んで吐き出させ、直ちに医療措置を受ける手配をする。</p>
応急処置をする者の保護	<p>「8. 暴露防止及び保護措置」の保護具を着用する。</p>
医師に対する特別な注意事項	—

5. 火災時の措置

消火剤	<p>初期火災には、粉末、二酸化炭素、乾燥砂などを用いる。 大規模火災には、泡消火剤を用いて空気を遮断する。 消火剤として粉末消火剤、泡消火剤、二酸化炭素、砂が使える。</p>
使ってはならない消火剤	特になし。
火災時の特有の危険有害性	<p>当該製品は分子中に窒素、リン、硫黄、ハロゲンを含有しているため火災時に刺激性もしくは有毒なガスを放出する。</p>
特有の消火方法	<p>消火作業は、風上から行う。 火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。 周囲の設備等の輻射熱による温度上昇を防止するため、水スプレーにより周辺を冷却する。 燃焼源の供給を速やかに止める。 関係者以外は安全な場所に退去させる。</p>
消火を行う者の保護	<p>消火作業の際は、必ず「8. 暴露防止及び保護措置」の保護具を着用する。 消火活動は風上から行ない、有毒なガスの吸入を避ける。</p>

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	<p>屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。 漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立入り</p>
-----------------------	-------------------------------------------------------------------

環境に対する注意事項	を禁止する。 風上から作業し、風下の人を退避させる。 着火した場合に備えて、消火用器材を準備する。 漏出時の処理を行う際には、必ず「8. 暴露防止及び保護措置」の保護具を着用すること。 流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。
封じ込め及び浄化の方法・機材	水で希釈する場合は、汚染された排水が適切に処理されずに環境へ流出しないように注意する。 少量の場合には、乾燥砂、土、おがくず、ウエス等に吸収させて、密閉できる空容器に回収する。 大量の場合には、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてから処理する。
二次災害の防止策	付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い 技術的対策	取扱いは、換気のよい場所で行う。 作業場の換気を十分に行う。 取扱い場所の近くに、緊急時に洗眼及び身体洗浄を行うための設備を設置する。 屋外での取扱いは、できるだけ風上から作業する。 取扱いの都度、容器を密閉する。 取扱い場所には、関係者以外の立入りを禁止する。 眼、皮膚、衣類に付けないこと。 保護手袋および保護眼鏡を着用すること。 取扱い後は、手、顔等をよく洗い、うがいをする。 容器を転倒、落下させ、衝撃を加え、又は引きずる等の乱暴な取扱いをしてはならない。
局所排気・全体換気	取扱う場合は、局所排気内、または全体換気の設備のある場所で取扱う。
注意事項	自動車、壁などの塗装面、大理石、御影石に散布液がかかると変色する恐れがあるので、散布液がかからないよう注意すること。
安全取扱い注意事項	かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。
保管	
適切な保管条件	換気のよい／涼しい場所で容器を密閉し、保管する。 日光から遮断すること。
安全な容器包装材料	別の容器に小分けして保管しないこと。

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策	取扱いについてはできるだけ密閉された装置、機器又は局所排気装置を使用する。 取扱いについては、全体換気装置を設置した場所で行う。 取扱い場所の近くに、目の洗浄及び身体洗浄のための設備を設置する。
管理濃度	未設定
許容濃度	未設定

保護具

呼吸器の保護具	農薬用マスク 消火の際は防毒マスクを着用することが望ましい。
手の保護具	ゴム手袋 消火の際は耐熱性手袋を着用することが望ましい。
目の保護具	保護眼鏡
皮膚及び身体の保護具	帽子、ゴム長靴、不浸透性防除衣

9. 物理的及び化学的性質

外観	類白色水和性粘稠懸濁液体
臭い	データなし
pH	8.5 (20%懸濁液)
融点/凝固点	データなし
沸点、初留点と沸騰範囲	データなし
引火点	引火点なし
自然発火温度	データなし
燃焼又は爆発範囲	データなし
蒸気圧	データなし
蒸気密度	データなし
比重	1.1 (20°C)
溶解性 (水)	分散
オクタノール/水分配係数	データなし
分解温度	データなし

10. 安定性及び反応性

安定性	当該製品は分子中に窒素、リン、硫黄、ハロゲン含有しているため加熱時に刺激性もしくは有毒なガスを放出する。
危険有害反応可能性	特になし。
避けるべき条件	高温、多湿、極低温。
混蝕危険物質	特になし。
危険有害な分解生成物	熱分解により一酸化炭素、シアン化水素、窒素酸化物、リン酸化物、硫黄酸化物、ハロゲン化水素が発生する。

11. 有害性情報

急性毒性	経口 ラット 300 < LD ₅₀ ≤ 2000mg/kg (♀) ¹⁾ 経皮 ラット LD ₅₀ > 2000mg/kg (♂♀) ¹⁾
皮膚腐食性/刺激性	ウサギ 刺激性なし ¹⁾
眼に対する重篤な損傷刺激性	ウサギ 原液 極軽度の刺激性あり (洗眼効果あり) ¹⁾ 400倍希釈液 刺激性なし ¹⁾
呼吸器又は皮膚感作性	モルモット 皮膚感作性あり ¹⁾
生殖細胞変異原性	データなし
発がん性	データなし

生殖毒性	データなし
特定標的臓器毒性	データなし
吸引性呼吸器有害性	データなし

12. 環境影響情報

生態毒性	魚毒性 ¹⁾		
	コイ	LC ₅₀ (96 時間)	53.2mg/L
	オオミジンコ	EC ₅₀ (48 時間)	63.6mg/L
	藻類	ErC ₅₀ (0-72 時間)	0.020mg/L
残留性/分解性	データなし		
生態蓄積性	データなし		
土壌中の移動性	データなし		

13. 廃棄上の注意

国及び地方自治体の廃棄物処理に関する法律・条令に従う。
廃棄物を河川、下水道等に流さない。

14. 輸送上の注意

国内規制	消防法、毒劇物取締法、船舶安全法、航空法等の規定に従った容器、包装、表示、積載、輸送方法により輸送する。
輸送の特定の安全対策及び条件	輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等がないことを確認する。転倒、落下、破損がないように積み込み、荷くずれの防止を確実にを行う。食品、飼料、肥料、種子とできるだけ混載しない。

15. 適用法令

農薬取締法	登録番号 第 22935 号
PRTR 法	第 1 種指定化学物質 (法第 2 条第 2 項、施行令第 1 条別表第 1)、政令番号 114 号 (インダノファン)

16. その他の情報

問い合わせ先	ホクサン株式会社 営業部業務課 北海道北広島市北の里 27 番地 4 TEL 011-370-2333
その他引用文献	1) 農薬登録申請書

記載内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しており、新しい知見により改訂されることがあります。また、注意事項は通常の取扱いを対象にしたものであって、特別な取扱いをする場合は用法に適した安全対策を実施の上、ご利用ください。記載内容は情報提供であって、保証するものではありません。